

AP十年ニュース

Asian and Pacific Decade Newsletter
「アジア太平洋障害者の十年」最終年記念フォーラム・ニュースレター

vol. 10

■発行人・編集人 「アジア太平洋障害者の十年」最終年記念フォーラム実行委員会広報・記録委員会委員長 比留間 ちづ子
■総合事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1 日本障害者リハビリテーション協会内
TEL: 03-5292-7628 FAX: 03-5292-7630
<http://www.normanet.ne.jp/~forum/>

CONTENTS

- ★いよいよ開幕! 国際会議 1
- DPI 世界会議札幌大会 2
- 最終年記念大阪フォーラム 3
- ESCAP ハイレベル政府間会合 4
- ★障害者差別禁止法をめぐり、熱い議論交わされる 5
- ★障害者施策推進全国キャンペーン展開中! 6
- ★最終年記念フォーラム寄付金状況および寄付金拠出者一覧 7
- ★ESCAP ハイレベル政府間会合関連行事のご紹介 8
- ★「アジア太平洋障害者の十年国際会議記念切手」いよいよ発行! 8

2002年は
アジア太平洋
障害者の十年
最終年

新しい十年への展開を求めて

成功させよう! 3つの国際会議!

- 第6回DPI世界会議札幌大会 (2002年10月15~18日)
- 第12回RIアジア太平洋地域会議 (2002年10月21~23日)
- 「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン大阪会議 (2002年10月21~23日)

バリアフリー! 3つの国内推進キャンペーン!

- 「欠格条項」総点検キャンペーン
- 「市町村障害者計画」策定推進キャンペーン
- 「情報バリアフリーとIT環境の整備」推進キャンペーン

いよいよ開幕! 国際会議

札幌、大阪、滋賀 それぞれの見どころを一挙紹介!

「アジア太平洋障害者の十年」最終年を締めくくるメイン・イベント、札幌フォーラム (第6回 DPI 世界会議札幌大会)、大阪フォーラム (第12回 RIアジア太平洋地域会議、「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン大阪会議) が、いよいよ開幕です!

第6回 DPI 世界会議札幌大会は、「すべての障壁を取り除き、違いと権利を祝おう!」をテーマに掲げ、10月15日から18日まで、北海道立総合体育センター・きたえーるを主会場に世界各国から約2000名の参加者が集結し開催されます。

第12回 RIアジア太平洋地域会議および「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン大阪会議は、「障害者の権利実現へのパートナーシップ」をテーマに、10月21日から23日まで、国際障害者交流センター・ビッグアイなどを主会場に開催されます。アジア太平洋地域で活躍するリハビリテーションの専門家や障害者関係 NGO の代表者ら約1500名が参加し、ホットな議論が交わされます。

また、これら3大国際会議での討議を受ける形で、10月25日から28日まで、国連 ESCAP (エスキャップ=アジア太平洋経済社会委員会)主催・「アジア太平洋障害者の十年」最終年ハイレベル政府間会合も、滋賀県で開かれます。

今回の AP ニュースでは、それぞれの国際会議の開催準備にあたってきた主催者からの熱いメッセージを、会議の見どころなども織りまぜながら、皆さまにお届けします!



DPI 世界会議札幌大会

過去最高の参加者が集い、盛大に開催!

2002年第6回 DPI 世界会議札幌大会直前報告

2002年第6回 DPI 世界会議札幌大会組織委員会事務局次長 西村 裕広

DPI 世界会議札幌大会がいよいよ開催されます。この稿を草している9月20日現在、登録者は初日のみの参加を含めると2,818人、これまでの大会では最高となっています。

過去の大会と比較すると、情報保障が最も充実している大会と言えるでしょう。会議においては日本語・英語・フランス語・スペイン語・韓国語を同時通訳し、聴覚障害者のために日本語手話とアメリカ手話、日本語の要約筆記、音声文字化による日本語と英語の字幕を用意します。会議以外では視覚障害者のための点字プログラム、CD ロムの資料、そして音声による施設案内装置を準備するほか、場内の案内係として手話、そして英語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語・ロシア語・インドネシア語など各言語のボランティアを配置します。DPI 世界会議は国際会議と障害者会議という2つの側面があります。情報保障が大きな課題でしたが、なんとかこれだけの準備をしました。

この情報保障のなかでもとりわけユニークなのは音声文字化システムの導入でしょう。文字通りスピーカーの話す言葉を文字化するシステムですが、おそらく国内で開催される国際会議では初めての試みと思われます。北海道大学と札幌市内にあるシステム関連のベンチャー企業の協力を得て実施され、初試みだけに不安はあるものの、ユニバーサルな国際会議システムとして発展する可能性を秘めています。

大会にあわせて歩道の傾斜解消を中心とする道路整備も行われています。大会の会場周辺や札幌の中心部が主に工事が進められています。千歳空港や一部地下鉄駅のバリアフリー化も行われました。

それら大規模なものがある一方、開催地周辺の商店街や町内会を中心に、やさしい街づくりを考える勉強会が盛んに行われるようになってきました。「何もかも行政に頼るのではなく、自分たちでできることをもっと考えよう」というスタンスで、自分たちに何ができるのかということを探索しており、大会をきっかけに生まれたソフト面の大きな財産です。開催地周辺だけでなく、同様の団体がいくつか旗揚げしましたが、大会が終了した後も後押しできるような体制をなんとか残せないものかというのが我々の悩みでもあります。

大会の真価が問われるのは、むしろ大会終了後しばらく経ってからでしょう。大会をきっかけに始まった数多くの動きはどのように進展するのか。大いに期待したいものです。



▲ DPI 世界会議札幌大会会場 北海道立総合体育センター（きたえる）

大阪フォーラム

大阪から世界にひろがれバリアフリーの新しい波



「アジア太平洋障害者の十年」最終年記念・大阪フォーラム

大阪フォーラム事務局 担当 正井 秀夫

国連が提唱した1981年の「国際障害者年」をきっかけに、そのテーマである障害者の「完全参加と平等」をめざす取り組みが、2002年の「アジア太平洋障害者の十年」最終年という形でひとつの節目を迎えます。

過去のキャンペーンによって、各国でさまざまなプログラムが実施され、医療やリハビリテーション分野では一定の成果がえられました。

しかし、障害者の人権確立・完全参加と平等の分野では、まだまだ不十分であり、とくに世界の障害者の半数以上（約3億人）が住んでいるアジア太平洋地域では、障害者一人ひとりの人権確立にはほど遠い状況です。

大阪では、これまでの成果を総点検し、なお残る根本的な課題を明らかにするとともに、その解決に向けてのポスト十年のあり方を検討し、「障害者の権利条約制定」へのダイナミックな原動力を生み出すため、「障害者の権利実現へのパートナーシップ」をメインテーマとして、2つの国際会議（RI アジア太平洋地域会議・「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン（RNN）大阪会議）と2つの国内会議（第25回総合リハビリテーション研究大会・国際職業リハビリテーション研究大会）を大阪国際会議場と国際障害者交流センターを中心に「アジア太平洋障害者の十年」最終記念・大阪フォーラムとして10月21日から23日に開催いたします。

大阪フォーラム組織委員会では、会議のキャンペーンを始め、日本国内とアジア各国から参加される方々にご不便をおかけしないように、ホテルチェック、宿泊の手配や移送・ボランティアの方々の配置・会場作りやレセプション・食事等々スタッフ一同万全の体制でお迎えすべく準備を行っております。

また、10月20日（17：00～20：00－前夜祭）と23日（17：00～19：00－後夜祭）には、国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）前広場で「ふれあい交流ひろば」を開催いたします。

この広場では、地域住民の皆さんの手作りで、アジア各国から参加される障害者の方々と府民、イベントを支えるボランティアが国際交流を行います。

当日は、“秋祭り”の風情で皆さんのご参加をお待ちしております。



▲大阪フォーラムのメイン会場 国際障害者交流センター（ビッグアイ）



滋賀 ESCAP 会議

ESCAP「アジア太平洋障害者の十年」最終年 ハイレベル政府間会合の我が国開催について

内閣府政策統括官(総合企画調整担当)障害者施策担当 矢野 理恵子

本年5月、国連アジア太平洋経済社会委員会 (UN ESCAP) 第58回総会において、我が国の主唱により「アジア太平洋障害者の十年」(以下、「十年」という。)を更に十年延長するとともに、この十年の行動課題の達成状況を評価し現「十年」終了後の行動の枠組みを決める最終年ハイレベル政府間会合を、本年10月25日(金)から28日(月)の4日間、滋賀県大津市において開催する決議が採択されました。

この会合は、国連ESCAPの主催の下に、加盟・準加盟61ヶ国/地域の代表者が出席して開催されるものです。我が国においては国内障害者施策の総合調整を行う内閣府が、国際会議の経験も豊富で障害者施策の先進的取組をしてきた滋賀県、大津市と協力・連携してホストすることとなりました。

これまで、1992年に北京において「十年」開始年会議を、1997年ソウルにおいて「十年」中間点高級事務レベル会合が開催され、それぞれこの十年の行動課題の提案や、行動課題の実施状況の進捗状況の評価がなされてきました。

日本国政府は、1998年の第54回総会において、2002年末までにハイレベルの地域会議を開催するよう努力することが決定されたことを受け、2001年の第57回総会においてこの会議の本邦誘致を表明していました。

ここで、簡潔に今回の会合の概要をご紹介します。

主 催：国連アジア太平洋経済社会委員会

目 的：「アジア太平洋障害者の十年」行動課題の実施状況の報告及び評価
並び「十年」の次の政策的枠組みの検討

開催日：2002年10月25日(金)から28日(月)

開催地：滋賀県大津市

参加者：ESCAP 加盟・準加盟の61ヶ国/地域の閣僚級から本省局長級の政府関係者、国連機関、NGO等から約250 (ESCAP 事務局見込み)

会議内容については、今後 ESCAP 事務局が各国政府と協議の上決定される見込みですが、政府としましては、この会合をホストすることにより、アジアの先進国である我が国に期待される国際的貢献を果たすとともに、国内施策においては、現行政策の評価と次の十年の中核となる政策を周知し、障害者施策に対するこれまで以上の国民の理解と、ノーマライゼーションの促進を図りたいと考えています。

今回の政府間会合は、先の ESCAP 総会において、会議を活性化する旨の決議がなされたことを踏まえての開催となります。ホストとしましては、これまで以上に充実した会議内容になることを期待し準備しています。

政府間会合会場は大津プリンスホテルのコンベンションホールですが、地元自治体独自のサイドイベントが予定されており、こちらは近隣のホテル等に会場を移して行われます。

開催にあたっては、障害のある方の参加が多数見込まれますので、設備のバリアフリー対応や案内表示の工夫など、障害のある方も参加しやすいような努力をしています。

皆さんの「3つの国際会議」をはじめ、障害者に関する大きな国際会議が我が国で一時に開催されるのは、これまでなかったことと思います。この機会に、加盟・準加盟各国/地域の皆さんと経験を共有し、交流が深まることを期待しています。

*ハイレベル政府間会合の関連行事を、刊末にご紹介しています。

障害者差別禁止法をめぐる、熱い議論交わされる

東京フォーラム「障害のある人の権利と法制度を考える」開催

2002年8月31日（土）、最終年記念フォーラム（記念フォーラム）のキャンペーン事業の一環として、「障害のある人の権利と法制度を考える」をテーマに「東京フォーラム」が開催されました。

会場となった全社協・灘尾ホールには、記念フォーラム関係者を含め300人をこえる参加者が集い、障害者の権利保障や差別禁止に係る法制度への関心の高さがうかがえました。

午前のプログラムでは、記念フォーラム組織委員長の八代英太氏（衆議院議員）による『ADAの衝撃』ふたたび』ならびに東京アドボカシー法律事務所の池原毅和弁護士による「世界の障害者差別禁止法の現状と課題」の2つの講演が行われました。

八代氏からは、障害をもつ米国人法（ADA）成立をめぐる当時の状況が詳しく説明され、障害分野における自身の活動経過を交えながら、ADAの規定とわが国の障害者施策の現状比較が語られました。また、わが国における差別禁止法の問題については、日本国憲法に「法の下での平等」規定の存在に触れ、「日常的な差別問題については障害者基本法で謳う」として、「障害者基本法の大幅な見直しが必要。来年度の通常国会にはその骨格を示したい」と、その熱意が語られました。

池原弁護士からは、世界における障害者差別禁止法の現状が報告され、「日本で障害者への差別禁止法を作っていく場合、障害者基本法の手直しでは不十分」として、障害者差別禁止法（JDA）の必要性が強調されました。また、差別禁止法の発展段階について、第1段階は「憲法等に規定されること」、第2段階は『差別とは何か』が具体的に法律に明記されること、第3段階は「裁判所以外の第三者機関が設けられ『差別』の判断がなされるようになること」、第4段階は『差別』の改善・是正措置を求める活動に加わることができること」と説明され、「日本は世界から見れば1950年代の水準」と、わが国における障害者差別禁止法制度への取り組みの遅れが厳しく指摘されました。

午後のプログラムでは、「障害者の権利法・差別禁止法に関わる取り組み」をテーマに、パネルディスカッション形式による討議が行われました。

障害者差別禁止法（JDA）を実現する全国ネットワークの伊東弘泰氏は「訴訟ができるような法律が必要。障害者基本法では役に立たない」と語られ、DPI日本会議の金政玉氏からは「脱施設、地域生活への移行といっても、生活環境が整備されず施設生活を選ばざるを得ない状況があり、その状況を本格的に変えていくスタートラインが障害者差別禁止法の実現」とJDAの必要性が強調されました。

全日本ろうあ連盟の黒崎信幸氏は、自動車運転免許を例に「欠格条項が廃止されても適正検査で落とされる。聞こえるか聞こえないかではなく、個々人の能力や努力を認めるべき」と道路交通法改正の矛盾点が、日本盲人会連盟の時任基清氏からも「絶対的欠格事由は廃止されたが、結局省令で従来と同じ問題が起こっており、医師免許はとれない」と欠格条項廃止後の問題点が指



▲東京フォーラム

摘されました。

全国精神障害者家族会連合会の江上義盛氏からは「精神医療や精神保健福祉は少しずつかわってきたが、精神障害者への差別や偏見は20数年前とほとんどかわっていない」と精神障害者をめぐる厳しい現実が伝えられ、「障害者団体は差別禁止にむけて小異を捨て大同団結することが必要」と関係者、参加者に訴えられ、全日本手をつなぐ育成会の野沢和弘氏からは、知的障害者が日常生活で受けている犯罪行為を例に「差別禁止法の必要性を一番感じている」として、「JDAの問題を一般社会にむかって説得力のある言葉で発する必要がある」とマスコミの立場からの視点も交えて語られました。

最後に司会の桃山学院大学の北野誠一氏から「JDAは障害当事者が自分達で考え、提案することが必要。JDAを勝ち取るまで、全国で同様な企画を展開することが重要」として閉会されました。

障害者施策推進全国キャンペーン展開中!

埼玉県での活動実践「彩の国・新障害者施策の推進をめざして」

埼玉県障害者社会参加推進センター（埼玉県障害者協議会）

1981年の国際障害者年、続くアジア太平洋障害者の十年も最終年を迎えました。私達はこの20年の間に障害者基本法やバリアフリー法、交通バリアフリー法など、多くの法改正や制度の改正も実現してきました。

最終年を迎える中で、国際的には「障害者差別禁止法」の機運も高まり、政府では新障害者プランの策定も決定しました。

埼玉県でも「埼玉県国際障害者年長期行動計画」「障害者対策に関する埼玉県長期計画」「福祉のまちづくり条例」などが策定され、障害者福祉も大きく前進して来ました。

こうした動きの中で、全国レベルでは「最終年記念フォーラム」として、札幌と大阪における国際会議と国内キャンペーン会議が開催されます。

この最終年は、本県においても「彩の国障害者プラン」の最終年度にあたり、多くの市町村でも「市町村障害者計画」の見直しの年にあたります。私達は、1997年に「豊かな市町村障害者計画」の策定を目指し、県内市町村の訪問行動(全県キャラバン)を実施、障害者団体のこうした運動と県および市町村行政の努力と相まって、全市町村に障害者計画を策定することが出来ました。

そして本年の最終年を「時代をひらく好機」として、21世紀を障害者の「人権」が守られる社会としたいと思います。

このため、県内の障害者団体が協力しあい次のような「最終年記念事業」を展開しています。

(1) 埼玉フォーラムの開催

日 時 2002年10月5日(土)

場 所 埼玉県障害者交流センター、他

(2) 市町村キャラバン

日 時 2002年11月6日～10日間程度

内 容 総理大臣のメッセージ

国際会議の決議文

団体の共通要望書をつくり市長へ届け懇談する

(3) (1)の埼玉フォーラム等へ向けて各加盟団体等による地域実行委員会を結成し地域での取り組みをすすめていきます。

最終年記念フォーラム寄付金状況

(2002年9月27日現在)

■総額 173,222,845円 ※中央組織委員会分

		内 訳			
主唱団体等	12,000,000円	個人	6,129,239円	企業	18,658,300円
団体	1,765,925円	学校	450,000円	施設	858,869円
民間助成団体等	53,575,512円	助成事業	39,785,000円	国庫補助金	40,000,000円

寄付金拠出者一覧

今回は、これまでご寄付・助成いただいた施設、民間助成団体等各位、ならびに、9月12日以降にご寄付いただいた個人、企業、団体各位をご紹介します。(入金日順)

〈施設〉

川崎 鉄男様	身体障害者療護施設 永幸苑 施設長	10,000	岡田 紀雄様	身体障害者療護施設 やすらぎ園 施設長	10,000
	身体障害者療護施設 嶺岡園	10,000		身体障害者療護施設 三愛園(福岡県)	10,000
松崎 陽一様	身体障害者療護施設 コスモ・ヴィレッジ 施設長	10,000	藤原 貴道様	清風会 吉田清風荘 所長	10,000
田口 一樹様	社会福祉法人 長興会 理事長	10,000	瀬戸山陽一様	太陽の里療護園 園長	10,000
塩崎 時子様	社会福祉法人 愛徳園 理事長	10,000	阿野 多助様	社会福祉法人 友愛会 理事長	10,000
手島 篤江様	社会福祉法人 みづき会 上総あいらいの郷	10,000	渡辺 清一様	社会福祉法人 ひすい福祉会 理事長	10,000
安永 正弘様	身体障害者療護施設 清友の里 施設長	10,000	小橋 明子様	身体障害者療護施設 ユーカリの里 施設長	10,000
川崎 鉄男様	身体障害者療護施設 永幸苑 施設長	10,000	渡辺 正孝様	身体障害者療護施設 ひびき荘 施設長	10,000
田村 憲義様	岐阜県立サニーヒルズみずなみ 園長	5,000	波岸 博光様	身体障害者療護施設 敬愛園 園長	10,000
中山 眞一様	身体障害者療護施設 山梨県立さぼうの家 所長	10,000	名嘉 純子様	身体障害者療護施設 ソフィア 所長	5,000
愛文様	身体障害者療護施設 函館リハビリセンター 理事長	10,000	白山 茂様	療護施設 雄高園 園長	5,000
上好 久子様	身体障害者療護施設 リハビリ橋本 施設長	5,000	大城 勝子様	身体障害者療護施設 青葉園 施設長	5,000
友野 茂夫様	社会福祉法人 横浜社会福祉協会佐久療護園 施設長	10,000	江草 安彦様	社会福祉法人旭川荘(本部) 理事長	30,000
川俣 千賀様	身体障害者療護施設 しららめ荘 荘長	3,000	松田 延久様	身体障害者療護施設 エーフォール 施設長	10,000
柴田 敏彦様	身体障害者療護施設 ライフガーデン加古川 施設長	10,000	横倉 英明様	瀬戸療護園 施設長	10,000
畑中 康雄様	身体障害者療護施設 神戸愛生園 施設長	10,000		社会福祉法人 光洋福祉会	10,000
	身体障害者療護施設 さくら苑	10,000	加藤 光男様	社会福祉法人 十仁会 ヴェルヴェチア 施設長	2,000
青島 達也様	身体障害者療護施設 「あすなる」 施設長	5,000	福田純一郎様	身体障害者療護施設 農光苑 施設長	10,000
	身体障害者療護施設 金浦療護園	5,000	馬淵 惺敬様	身体障害者療護施設 かんねさこ荘 施設長	10,000
中山 洋一様	社会福祉法人 敬山会 たまりメリーホーム 施設長	10,000	北波 利雄様	在宅複合型施設 ひろの里 理事長	50,000
磯部健二郎様	身体障害者療護施設 鼓澄苑 苑長	10,000	長岡 均様	社会福祉法人 友好福祉会妻の家 施設長	10,000
増山 勝子様	身体障害者療護施設 三愛園(姫路市) 園長	10,000	奥村 昭様	社会福祉法人 宝林福祉会 理事長	5,000
森 舜次様	身体障害者療護施設 ひのみね療護園 園長	10,000		佐賀県立希望の家	2,669
加藤 直則様	徳島県立ひのみね整肢医療センター	10,000	村井 健三様	身体障害者療護施設 グリンハイム 施設長	10,000
川口 和美様	社会福祉法人 光生会 岸和田光生療護団 施設長	10,000		身体障害者療護施設 どんぐり	30,000
紅葉 輝明様	身体障害者療護施設 光明園 施設長	10,000	青木 與夫様	身体障害者療護施設 桐花園 園長	5,000
小林建次郎様	社会福祉法人 横浜社会福祉協会千曲園 理事長	10,000		津田療護園	10,000
平塚 正博様	身体障害者療護施設 「愛光園」 園長	5,000	工藤 伸役様	身体障害者療護施設 山郷館 館長	10,000
藤崎 秀生様	身体障害者療護施設 緑風園 園長	10,000	宇野 満明様	身体障害者療護施設 東毛会はるかぜ荘 施設長	5,000
倉光かずみ様	身体障害者療護施設 サンハウス 理事長	5,000	今村 照代様	身体障害者療護施設 亀山苑 苑長	10,000
	社会福祉法人 春陽会	10,000	仁田ミチ子様	重度身体障害者療護施設 有誠園 園長	10,000
松村 福子様	身体障害者療護施設 今宮寮 施設長	10,000	菅原 継昭様	身体障害者療護センター ほとと 施設長	5,000
佐川 里美様	身体障害者療護施設 どんぐりの郷 施設長	10,000	伴 博公様	京都市桂川療護園 施設長	10,000
今 勝代志様	身体障害者療護施設 金浜療護園 園長	10,000		身体障害者療護施設 愛燐館	20,000
船木 良晴様	社会福祉法人 札幌恵友会 理事長	10,000		渡島リハビリテーションセンター	10,000
	社会福祉法人 めぐみ会 かの木ケアセンター	10,000		身体障害者療護施設あおぞら	5,000
	身体障害者療護施設 ありすの杜	10,000	加瀬 治代様	聖マーガレットホーム 園長	10,000
林 靖隆様	身体障害者療護施設 百花園 園長	10,000	安野 豊様	栃木県氏家清風園 園長	1,200
属 壽代様	身体障害者療護施設 西友苑 施設長	10,000	濱田 春代様	身体障害者療護施設 すみよしの里 施設長	10,000
日野 博愛様	社会福祉法人 ゆうかり学園 千歳療護園 園長	10,000		社会福祉法人 希望の家	2,000
比嘉 榮様	身体障害者療護施設 沖縄中央療護園 園長	5,000	神野 正一様	社会福祉法人 徳友会 青山探光苑 理事長	10,000
塩尻 佑順様	四天王寺悲田富田林苑 施設長	10,000	坂本 史朗様	身体障害者療護施設 湯免清風園 園長	10,000
平敷 昌一様	社会福祉法人 美原の里 理事長	5,000	和田守 宏様	社会福祉法人 高嶺会 理事長	10,000
斎藤 重子様	江南療護園 施設長	10,000	徳川 輝尚様	身体障害者療護施設 こひつじの苑 施設長	18,000

〈民間助成団体等〉

キリン福祉財団様	2,000,000	全国労働者共済生活協同組合連合会様	5,000,000
太陽生命ひまわり厚生財団様	1,000,000	全国生活協同組合連合会様	10,000,000
丸紅基金様	2,000,000	警察職員生活協同組合様	3,000,000
安田火災記念財団様	3,000,000	防衛庁職員生活協同組合様	1,000,000
ファイザー財団(米国)様	3,575,512	生活協同組合全国都市職員共済会様	3,000,000
中央共同募金会様	2,000,000	全国町村職員生活協同組合様	2,000,000
全国特定郵便局長生活協同組合様	1,000,000	大阪府民共済生活協同組合様	10,000,000

〈個人〉

社会福祉法人 浴風会 有志一同様	18,634	山内 繁様	国立リハビリテーションセンター研究所	50,000
古荘 喜一様	5,000	櫻井 英雄様		5,000
福祉機器展 会場募金様	4,042	N P O ゆきわりそう様		50,000
斎藤 貞夫様	10,000	私たちは心で歌う目で歌う 有志様		15,626

〈企業〉

信設計事務所様	50,000	N E C ネクサソリューションズ株式会社様	800,000
---------	--------	------------------------	---------

〈団体〉

社団法人 日本オストミー協会様	300,000	岐阜県大垣市立かわなみ作業所様	3,925
-----------------	---------	-----------------	-------

ご協力ありがとうございます！

ESCAPハイレベル政府間会合 関連行事のご紹介

「アジア太平洋障害者の十年」最終年びわこ会議実行委員会事務局

「アジア太平洋障害者の十年」最終年ハイレベル政府間会合が滋賀県大津市で開催されることを機に、さまざまな関連行事を行います。

- **イヴ フェスティバル** (10/24)
政府間会合と関連行事の前夜祭。
- **交流会** (10/25~28)
アジア太平洋障害者の十年後を考える集い、ITで変わる社会参加をテーマとしたネットミーティング、福祉あんしん県をめざした映画会、講演会など。
- **第6回糸賀一雄記念賞授賞式** (10/26)
障害者福祉の分野に顕著な活躍をされている人々を表彰。今回の受賞者は3名。(中西由起子氏(東京都)・セタレキ・セル・マカナワイ氏(フィジー諸島共和国)・フィン・ヴァン・カム氏(ヴェトナム社会主義共和国)) また、今回は過去の受賞者による記念シンポジウムも開催。
- **障害者芸術展** (10/24~10/28)
「さわるアート『触覚の庭』」。「見る」だけでなく、「触る」という新しい鑑賞体験の芸術展。
- **音楽祭** (10/27)
障害のある人もない人も同じステージに立ち、ベートーベン第9交響曲「歓喜」を合唱。
- **APWD 総会・国際セミナー** (10/25~27:琵琶湖ホテル)
APWD(アジア太平洋障害者ワークセンター・ネットワーク)による社会就労の推進や国際協力・国際交流を目的とした講演、セミナーの他、バザール・国際見本市をアークスで開催。

<問い合わせ>

「アジア太平洋障害者の十年」最終年びわこ会議実行委員会事務局

TEL: 077-528-3581 FAX: 077-528-4855

e-mail: ec0001@pref.shiga.jp HP: <http://www.pref.shiga.jp/asia10/>

*ハイレベル政府間会合の概要を、4ページにご紹介しています。

「アジア太平洋障害者の十年国際会議記念切手」いよいよ発行!

「アジア太平洋障害者の十年国際会議記念80円郵便切手」が、10月10日に、いよいよ全国の郵便局で販売開始されました。

発行枚数は1,500万枚。10枚1シートで販売され、1枚からでも購入できます。最終年フォーラムでは、札幌、大阪のそれぞれの国際会議場に、記念切手の販売コーナーを設置するほか、この切手と絵はがきをセットにした記念品「記念切手付き絵はがきセット」を作成し、国際会議場等で実費販売いたします。

また、原画作家の、さとなかちえさん(イラストレーター)が大阪出身であることから、大阪フォーラムの会場では、さとなかさんの作品展示も行う予定です。ご参加の際にはぜひお立ち寄りください。

フォーラムでは、この切手の図柄を使ったその他の記念グッズの作成も検討してまいります。関係団体でそのようなグッズ作成等を企画をされたい場合は、フォーラム事務局へご連絡ください。

上述の「絵はがきセット」の購入希望などのお問い合わせも、事務局までどうぞ。1,500万枚の発行部数を誇るこの記念切手を、多くの人に利用いただくことで、私たち障害者関係団体の意気込みを広く世の中に示すことになろうと思っております。関係各位には、ぜひご購入され、活用いただきますようお願いいたします。



▲記念切手付き絵はがきセット